

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [関西福祉大学] 担当教諭名 [金子 美里] (2年 11名)

相手国・地域 [メキシコ]

海外学校名 [Universidad Veracruzana] 担当教諭名 [黒崎 充]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	幼児教育	幼児期の発達	3
	造形表現	発達を促すおもちゃ	5
	造形表現	壁画制作	8

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	未来をつくる子どもたちの環境を世界中の人と一緒に豊かにしよう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	昨日より今日、今日より明日に希望をもって生きている子どもたちに、大人はどんな環境を与えられるだろうか。未来をつくるのは子どもたちだ。私たちが子どもの今を真剣に考えることが豊かな未来につながるだろう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の方と同じ課題に向かって考え、意見を出し合い、お互いの国の価値観に触れられたこと。 ・相手を尊重しつつ、自分の考えも伝えることで高めあう感覚をもてたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両国で取り組む課題についてこちらでリードする形を取ったが、メキシコの学生さんにとってはまったく専門ではないことにあわせて頂いたところがある。課題探しから両国でできるようになればと思った。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の方との交流が容易に感じられるようになった。 ・表情が豊かになった。 ・自分に出来ることを考えて行動できるようになった。 ・メキシコの文化の重みを感じた。 ・やさしい人柄に触れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流は決してハードルの高いものではないこと。 ・学生は自分たちでより良いものを考えることができ、教師はきっかけをいかにつくるかが大事であるという考え。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 6月	・幼児期の発達について、0歳から5歳の特徴をまとめた。 ・発達に合うおもちゃについて、日本のもので考えた。	・それぞれが担当した年齢の発達を共有したことで、協力して発達の流れをつかんだ。 ・発達に合う国産のおもちゃを選び、その根拠を共有した。	ゼミ4
共有 <small>相手と意見交換</small>	7月 9月	・調べ学習のパワーポイントでベラクルス大学との交流を行った。ベラクルス大学からも、発達の特徴とおもちゃについて共有がなされた。	・自己紹介では、改めて自分や日本、住んでいる地域、大学や学びについて考え、自分をどう表現するか考えていた。 ・幼児教育についての考え方の違いに驚いたり、共感したりする場面があった。	ゼミ2
融合 <small>メッセージ作成</small>	11月	・未来をつくる子どもたちの環境を世界中の人と一緒に豊かにしよう。	・キーワードを出し合って今回のテーマについて考えた。	ゼミ2
創造 <small>壁画制作</small>	11月 12月	・メキシコから先に絵を描いた。図案は話し合い、お互いの意見を取り入れた。	・メキシコから送られてきた荷物が異国の雰囲気たっぶりであったため、喜んでいた。 ・壁画制作は全員が積極的に取り組んだ。	ゼミ7
評価 <small>振り返り 自己評価</small>	3月	・作品の完成を共有した。お互いの感想を伝え合った。活動からの学びをそれぞれにまとめた。	・考え方が前向きになり、達成感を持っていた。 ・自分の可能性を広く捉えることができていた。	ゼミ1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	自己紹介の場面で、自分を海外の人に紹介する時に、改めて自分について考えることができていた。同時に、語る内容のなさ、知らなさを感じていた。
主体的に考え行動する力	5	活動の端々に、よりよい方法を提案する学生が増えてきた。挨拶もしっかりするようになり、場をつくる一員として行動ができるようになってきた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	相手を尊重する度合いがお互いに高く、論理的に深めていくことは少し弱く感じた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	言葉に関しては、翻訳のアプリに頼ったものとなったが、協働についてはその感覚を得ることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	お互いにキーワードを出し合い、それらを統合しながら壁画へと進んでいくことができた。